

特集

がんに負けない生活習慣

がん患者はなにに悩んでいるのか

# がん哲学外来を通して 見えてきたもの

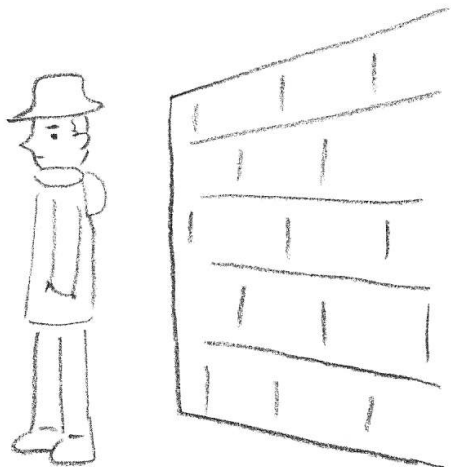
2008年、順天堂大学医学部附属順天堂医院に「がん哲学外来」という特別外来が設置されました。

そこは、医師とがん患者が、対等な立場でがんについてじっくりと話し合う場でした。

「がん哲学外来」を訪れたがん患者の悩みや満たされない思いからは、

現代のがん医療に足りないものがかいま見えてきます。この外来を開設し、多くのがん患者と

対話を重ねてきた樋野興夫さんにお話を伺いました。



ひのおきお●(勸癌研究会癌研究所病理部、アメリカ・アインシュタイン医科大学肝臓研究センター、同フォックスチェースがんセンター、癌実験病理部長を経て現職。専門は病理学・がん学。著書に『がん哲学』(to be 出版)、『がん哲学外来の話』(小学館)などがある。

お話 樋野興夫  
取材・文/鈴木(本誌)  
え/nakaban  
順天堂大学医学部病理・腫瘍学講座教授